



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理 念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療 患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に 医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療 ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の 育成を行います













災害実動訓練

11月6日(日)人吉市と共催する形で人吉市総合防災訓 練が実施され、人吉医療センターは熊本県人吉保健所と合 同で災害実動訓練を行いました。午前8時30分 人吉盆地 南縁断層を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生、 人吉球磨地域で震度6強を観測したという被害想定で、発 災直後に幹部職員は各所属の責任者から被害状況を情報収 集し、午前8時45分に災害対策本部を当院本館4階事務室に 設置することを決定。1階には運ばれてきた人たちの負傷 程度や治療の優先順位を判断するトリアージエリアや、傷 病の緊急度・重症度で分けられた被災患者の診療をおこな う医療エリアを展開しました。各エリアの様子はスマート フォンのスカイプ機能を使いライブ映像を災害対策本部で 見ることができました。午前9時過ぎには人吉保健所の職 員が来院して人吉保健所医療救護現地対策室を当院本部と 同フロアに設置、後に近隣の透析可能な医療機関の情報な どを直接聞くことができました。電話、FAX、インター

ネット (EMIS) 等の通信ツールを利用した他、人吉市役所とは衛星携帯電話・アマチュア無線を使っての情報収集訓練を行いました。地域協力会の方々には、患者役や炊き出し訓練に参加して頂きました。また、他院DMATの隊員が来院するなど今年はいろいろな設定を試みました。災害対策本部フロアをはじめ、医療エリアでの職員の真剣な表情や慌ただしい人の動きで、とても緊張感のある訓練となりました。265人の病院職員、38人の地域協力会会員、人吉保健所職員、人吉アマチュア無線クラブ員と、300人を超える多くの方が参加した人吉医療センターでの訓練は午前10時半過ぎに終了し、講評では災害対策本部長の木村院長より「訓練の時、シナリオ通りに動くのではなく、何故そうするのか、本当にそうしなければいけないのかを考え、実際に地震が発生した時に対応できるよう、常に考え、想像し行動してほしい。」と話がありました。

今回の訓練から当院の問題点や弱点を見つけ改善していき、当地域医療圏の災害拠点病院として更なる災害医療体制の向上に取り組んで参ります。

総務企画課 総務係長 石井 潤

参加者の声

11月6日人吉盆地南縁断層を震源とする震度6強を想定とした災害実動訓練が実施されました。

私はトリアージエリアの搬送係として参加しました。 今年の4月に熊本地震が発生し地震の恐ろしさ大変さを 痛感しました。そのため今回の災害訓練は気を引き締めて 参加したのですが初めての災害訓練でうまくできず焦って しまい冷静に行動できませんでした。災害はいつ起こるか わからないため、災害時に焦らないようにもう一度この訓 練について振り返り考えることが大切だと思いました。

リハビリテーションセンター 理学療法士 高橋 佳奈



人吉医療センター 病院フェスティバル Vol.9 開催!

11月6日(日)に病院フェスティバルが開催されました。私は今回が初めての病院フェスティバル参加で、どのようなことが行われるのか当日まであまり分かっていなかったのですが、ステージ発表があったり、屋台が出ていたり、各部署ごとに様々なことが体験できるブースが展開されており、楽しむことができました。

私の所属する臨床検査部では、エコー検査で脂肪肝の チェックをする体験ブースと実際に脂肪肝と正常な肝臓 の組織標本を顕微鏡で見比べてもらいました。その際 に、脂肪肝についてのことや運動療法と食事療法で脂肪 肝が改善できることなどを説明しました。

普段の業務では、肝臓のエコー画像や顕微鏡で組織を 見て詳しく説明することがないので、このフェスティバルを通じて脂肪肝についての様々な知識を話す機会となりました。そのことで自分自身も勉強になりよい経験を させていただきました。

臨床検査部 臨床検査技師 岩﨑 李歩









褥瘡予防対策委員会の活動をご紹介します!

<院内研修会を開催しました!>

10月に3日間、全職員対象の褥瘡(床ずれ)の勉強会をおこない、300人が参加しました。

○「深い褥瘡」は、「黒色期→黄色期→赤色期→白色 期」の順で治ります。

○皮膚の3層構造を覚えましょう、「表皮・真皮・皮 下組織」。真皮には毛穴があり、ここまで残っていれ ば、早く治ります。

○2時間毎の体位変換とエアマットレスの普及により、昔に比べ褥瘡は大きく減りました。これからは、ワセリンなどによる皮膚保護や保湿の啓蒙が必要です。

○周辺が真っ赤な褥瘡は、中に膿がたまっている可能性があります。すぐに切開して膿を出さないと命に関わることもあるので、その日のうちに医師の診察を依頼してください。

褥瘡を直接見ることのない職種も多いですが、それぞれの立ち場で活かすことができそうとの声が多数聴かれました。

<普段の委員会活動は?>

月1回、薬剤師・理学療法士・管理栄養士を含めた多 職種合同で総回診をおこない、週1回、医師・看護師に



よる重点回診をおこなっています。

皮膚科の常勤医はいませんが、総合診療出身の医師と、WOCナース(皮膚・排泄ケア認定看護師) 2 名が中心になり、相談しながら治療方針を立てています。

また、総回診のあとには、全病棟の褥瘡委員による会合をおこない、症例の経験の共有や、勉強会をして、レベルアップを図っています。

くこれからの目標!>

褥瘡の見れる医師・看護師を一人でも増やし、地域に 貢献していきたいと思います。

産婦人科・総合診療部 渡邉 龍太郎

感染対策研修会

10月20日から3日間、HIV・AIDSについて外部から講師を迎えて感染対策の研修が行われました。まずAIDSはどうやって移るのかという感染経路の話があり、感染リスクはなく感染制御としてスタンダートプリコーション(標準感染予防策)で対応し、HIV感染症に対する特別な感染対策は必要ないとのことでした。しかし、HIV感染患者は年々増加傾向であり、感染対策についての知識は不十分な現状にあると感じました。

私たちは医療従事者としてセルフケア支援や精神的支援、個人情報保護を行う必要があります。なぜならHIV感染患者の差別や偏見などまだ社会的な影響も多く、患者が抱える問題があるからです。HIV感染患者が入院、通院した際にその人が住んでいる地域でその人らしい生活ができるような援助が必要となります。

今回の研修でHIV感染患者が身近にいることを知るとともに、医療従事者として各スタッフが協力してチームでケアを提供することが重要だと学びました。

5階西病棟 看護師 宮本 茜

「認定がん医療ネットワークナビゲーター」のご案内

がん医療ネットワークナビゲーターとは、日本癌治療 学会が育成する「地域におけるがん相談支援員 | です。

地域において、がん診療連携拠点病院のがん相談支援 センター (がん専門相談員)をサポートし、がんに関す る正確な情報を的確、適切に患者・家族に伝え、患者・ 家族の疑問に答え、悩みを解決する手助けをするもので す。主に情報提供を本務とします(医師、看護師、薬剤 師、メディカルクラーク、がんサロンスタッフ、ピアサ ポートグループ、ケアマネージャー、介護スタッフな ど、がんに関わる施設・組織に所属する方々が受講され ています。(ただし、この認定資格のみをもって医療介

入を行うことはありません。)

受講方法

- ①日本癌治療学会ホームページからeラーニング申込み (ID取得、利用登録)
- ②セミナー開催情報ホームページにて確認し、セミナー (Aセッション、Bセッション)を受講。
- ③eラーニング、Aセッション、Bセッション修了者が、 実地研修に進む。(※当院は実地研修施設です)
- ④全ての過程の終了証明等をもって日本癌治療学会へ申 請を行い審査にて認定となります。

問合せ先:一般社団法人日本癌治療学会 TEL:03-5542-0546 ホームページ: http://www.isco.or.ip/ipn/ 当院ホームページからもアクセス可能です。 がん相談支援センター 相談員 南



アピアランスケア講習 (メイク・ネイルケア) を受講しました。

10月24日 当院においてア デランスさんより講師をお招 きしアピアランス(外見)ケ ア講習・デモストレーション を開催致しました。講習で使 用したスキンケア・メイク用 品は一般に販売してあるもの で、近場のコンビニエンスス トアに置いてあるような商品 を使用し行われました。私自 身、美容師・ネイル・エステ など美容に関する資格を多数 所持しておりますが、「アピ





アランスケア」と言う言葉を聞いた時はとても衝撃を受 けました。病院での勤務が初めてと言う事もあり、勤務 当初は「病気」と「美容」は無縁だと思っていました。 しかし、がんの患者さんには男性・女性限らず治療に伴 う肌や爪の変化、脱毛など、外見の変化に悩みがある方 が多くいらっしゃる事を知りました。実務経験が少ない 私ではありますが、悩んでいらっしゃる方に対し、何か お手伝いする事はあるのではないかと考えるようになり ました。外科外来スタッフの協力もあり、アピアランス ケア講習会を今後も受講し、自分の得意分野を発揮でき るよう頑張っていきます。

外科外来クラーク 池田 奈津希

病気をしても私らしく! ひまわり会開催

乳がんの手術で乳房を 全摘・温存手術をされた 方は、女性として自信が 持てなくなり、なくした 乳房を隠したい思いから 前傾姿勢となり、身体の バランスが崩れて、肩こ



りや腰痛が発症することがあります。またサイズの あっていない下着も同様です。

そこで10月24日のひまわり会は「乳がん手術 後の下着・パッドについて」をテーマに、木村医療 器㈱さんより自分に合った下着選びのポイントにつ いてお話しをして頂きました。手術前の下着は捨 てなくてもよい。以前はワイヤー入りのブラジャー は禁止していましたが、現在は必ずしもそうではな いなどの話を聞かれると参加者から「私は全摘して るけど、今着けている下着をみて」「私はリンパ節 郭清をしてますが、こんな下着を着けたい、いいで すか?」など自分が着用したい下着を具体的に尋ね られ「捨てる、できなくなった(マイナスイメー ジ)」から「使ってよい、できるんだ(プラスイ メージ)」という心の変化を感じました。

次回は、12月26日「リンパ浮腫ケア」ついて 開催予定です。

ひまわり会入会はいつでも受付ております お問い合わせ先: 医療福祉連携室 (Tel: 0966-22-2191/代表)

外科外来 看護師 山下 ルミ



「がん相談支援センター(がん専門相談員)」とは?

当院のようながん診療連携拠点病院の指定要件の1つで、がんに関する地域全体の相談員です。

がん診療連携拠点病院は、がん相談支援センターを設置し、国立がん研究センターによる規定の研修を修了したがん専門相談員を配置すべきとなっています。その研修内容は相談員の基礎的なものに加え、診療ガイドライン・エビデンス・がん予防・臨床腫瘍学・精神腫瘍学・支持療法・臨床試験・各がんの病態・治療方法などです。よって、その役割は、がんの病態、標準的治療法に関する情報提供/患者家族の情報整理の支援/病気などの正しい理解の促進と治療法選択における支援/告知後などのメンタル・情緒面のサポート/セカンドオピニンの紹介・専門職へのつなぎ/がんサロンなどピアサポー

トグループの活動支援/就労支援、アピアランス(治療による外見変化へのケア)、患者・家族間調整、その他企画(講演会・集まり)などがん支援に関わるもので多岐にわたります。是非、がん専門相談員をご利用下さい。がん相談支援センターは1階初診・再来受付横に設置されております。下記相談員へご連絡いただきますと、必要に応じて面談設定など行います。外来・病棟からもご依頼いただけますので、どうぞ宜しくお願い致します。近く、名刺サイズの「紹介カード」を配布する予定ですので、ご利用下さい。

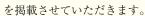
がん相談支援センター がん専門相談員 南 秀明・杉松紗織

教育の現場へGO! 一性教育講和一

人吉医療センターでは、健康や命への関心を若年から高めてもらうことができるように、教育の現場へ出向き、性教育やタバコの害などの講演をおこなっています。

なかでも「生と性」に関する興味は10代には一番身近な話題といえ、今年の7月には人吉高等学校定時制、10月には球磨商業高等学校、玉名高等学校へ当院の大竹秀幸副院長・産婦人科部長が出向き性教育講和を行いました。

講和の中で「産道は人生で初めて通る危険な道である」、「出産で命を落とすこともある」、「性感染症が





<感 想>

私は今回の生と性の講演を聞いて自分は生まれてからずっと家族や周りの友達から支えられながら生きているんだなぁと改めて実感しました。

生きることの意味が分からなくなったりすると、自分なんてどうでもいいと思うようになってお金のために自分を売ったりするような犯罪につながってくるのかなと思いました。また、性交したときにいろんな病気にかかったりHPVなどの子宮頸がんにもなる可能性があった

り、その病気になったせいで一生を台無しにすることも あるんだなとわかりました。

好きな人と愛情を確かめたいと思うことはいいことだと思うけど、きちんと知識を身につけてからそのリスクを一緒に背負える人でないといけないなと思いました。

最近は、SNSで知り合って仲良くなって性犯罪をされたり、命につながることもあるので、自分の身体は自分しか守れないので判断を間違えないようにしていきたいです。

<u>角膜・臓器提供について意思表示されていますか</u>

当院は心停止後の角膜提供可能な施設です。

角膜とは目の最も前にあり、約0.5mmの透明な膜です。主に、外の光を取り入れる窓の役割と、光を屈折させて目のピントを合わせる役割をしています。角膜が外傷や感染症、遺伝的疾患などにより透明性を失ったり変成や変形により眼のフィルムに当たる網膜に、像を結ぶことができなくなった場合に角膜移植術が行われます。病気により光を失われ、角膜移植を待っておられる方が熊本県内に150名程いらっしゃいます。角膜を移植することで、私達が当たり前に見えている世界を見る事ができるようになります。

H28年10月、当院で亡くなられた方から角膜摘出が行われました。生前、ボランティア活動に協力的で、常日ごろよりに人の為になりたい。との思いがおありになる方だったようです。今回は、ご本人の角膜提供の意思が書かれたカード等は確認できませんでしたが、ご家族の

角膜提供の希望があり熊本県移植コーディネータから話 を聞かれ、角膜提供に同意されました。

角膜提供では年齢の制限はありません。また、心停止後10時間以内であれば角膜提供が可能です。角膜摘出の所要時間は30分程で、献眼後は義眼を装着されますので、顔の表情が変わることもありません。希望があれば、自宅での摘出も可能となります。お一人の提供でお二人の方が光を取り戻すことができます。

院内コーディネーター 杉松 紗織

人物紹介

~ 93歳まだまだ現役です ~

今回は、当院元看護師 植杉 千枝子さんのご主人で過去に本誌でも幾度か登場されましたスーパーレジェンド 植杉 乾蔵さんのご紹介をさせていただきます。

植杉 乾蔵さんは大正12年12月1日生まれの現在93歳です。実は植杉さん、現在でもゴルフ18ホールを週2回以上ラウンドされ、さらにエージシュート(自分の年齢と同じまたはそれ以下のスコアでラウンドすること)が1449回(H28.11.25現在)と日本一の記録をお持ちのスーパーレジェンドです。

ゴルフは、退職後に本格的に始められたそうです。順風満帆のゴルフ人生・・・と思いきや、足関節骨折、帯状疱疹、白内障、脱水症など、度重なるアクシデントも乗り越えておられます。また、今年は体調を崩し検査入院もされ、大好きなゴルフもしばらくお休みされました。足腰の筋力低下はもちろん、気力も落ちていた植杉さんでしたが、その植杉さんの背中を押されたのは同じくゴルフが趣味の奥様です。久しぶりのゴルフには用心の為に在宅酸素を持ち込まれたようで、ゴルフ場の方や一緒にプレーされていた方々も大変驚かれたことでしょうが、ほとんど使用することなくラウンドできました。(当院で)教わった呼吸訓練を実施することで、在宅酸

素は使わなくなったと話されます。

さらに食事は"栄養摂取の場"としてバランスよくいろんな食材を食べられています。手抜き



料理は得意と話される奥様ですが、口にするものの質・量・時間には奥様のこれまでの知識や経験を踏まえた要素が沢山盛り込まれていました。

植杉さんからは、「体調管理には生活習慣がもちろん 関与していますが、何かあった時に検査や治療をしてい ただく病院があり大変感謝しています。」と言っていた だきました。

90歳を過ぎてもこうしてエージシュート記録を更新されて、日常を丁寧に生活されておられるお姿に感銘を うけます。

今回、沢山のお話に加え、ゴルフ雑誌の掲載記事、新聞等の資料も拝見させて頂きました。勉強になる話しばかりで、植杉さんの生活姿勢に大変刺激を受けました。

医療福祉連携室 MSW 杉松紗織

人吉医療センター地域協力会総会開催

10月17日(月)当院講堂にて、平成28年度人吉医療センター地域協力会総会がおこなわれました。人吉医療センター地域協力会とは、当院が地域住民から信頼され、地域とともに病院が充実し発展していくように住民の皆様と連携を密にすることを目的とした会で、近隣町内を中心とした住民で構成され、緊急時の入院患者の避難協力、災害実動訓練への参加、花壇の植栽などの美化活動に取り組んでいます。総会には顧問の松岡人吉市長代理の松田副市長を含め約50人の会員が出席されました。活動内容をいくつか紹介しますと、園芸部は花壇の植栽を



しており、季節のお花がいつも綺麗に咲いています。 災害実動訓練では、毎年患 者役や炊き出し訓練に参加 していただいております。 病院フェスティバルでは、



おいしい野菜カレーの販売や餅つきなどをご協力いただい ております。総会終了後、意見交換会をおこない、ご出席 の方々より日頃の病院について率直なご意見などをいただ き、大変有意義なものとなりました。今後も一層地域の中 核病院として信頼され、地域に根付いた病院づくりをおこ なって参ります。

総務企画課 総務係長 石井 潤

人吉医療センター Facebook やってます!



当院では、平成23年10月よりFacebookにて院内の最新情報を随時更新しております、是非ご覧ください。皆さんからのコメントなどもお待ちしております。

https://www.facebook.com/hitoyoshi.hospital/



第8回 人吉医療センター 「緩和ケア研修会」 募集案内

1. 研修の目的

がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画における「すべてのがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修」(厚生労働省通知)に則り、がん診療に携わる医師等が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得し、がん治療の初期段階から緩和ケアが提供されることを目的とします。

2. 研修会の対象者

がん診療に携わる県内外の医師・薬剤師及び看護師等 のコメディカルも参加可能です。

3. 研修会の日程及び会場等

(1) 開催日時:平成29年1月21日(土)

8時30分~18時30分(予定)

平成29年1月22日(日)

8時30分~15時30分(予定)

(2) 開催場所: JCHO人吉医療センター 3階講堂

(3)対 象:がん診療に携わる県内外の医師等

※医師を優先しますが、薬剤師及び看護師等のコメディカルも参加可能です。

(4) 参加人数: 先着約30名を目処に締め切らせて頂きます。

(5) 申込期限:平成28年12月16日(金) 「JCHO人吉医療センター緩和ケア研修会申込書」 にご記入の上、FAXにてお申込み下さい。

4. 修了証書の交付

研修修了者には厚生労働省健康局長より「修了証書」 を交付します。

※2日間のプログラム中に途中退席等されますと、修了 証が出ませんのでご了承下さい。

【問合わせ先】

JCHO人吉医療センター

がん相談支援センター 南 秀明・杉松紗織

電話: 0966-22-2191 (代表) Fax: 0966-22-7879

E-mail: minami-hideaki@hitoyoshi.jcho.go.jp

主催:人吉医療センター/後援:熊本県

心リハウォーキング

10月27日(木)に 心臓リハビリ患者会 でウォーキングを行 いました。

......

午前中は天気が悪 く開催できるか不安 でしたが、午後から



は天気も回復し予定通り無事に執り行うことが出来ました。

今年は中河原公園へ行き、川のせせらぎを聴きながら 自分のペースで自由にウォーキングを楽しまれていまし **

参加された皆さんとの交流ができとても楽しい時間を 過ごすことが出来ました。

医療福祉連携室 MSW 小田 薫子

11月の勉強会報告

11月10日(木)第90回消化器カンファレンス

「範囲診断が困難だった早期胃癌の一例」

当院 消化器内科 西村 淳先生

「鏡視下手術の可能性」

当院 内視鏡外科部長 田中 秀幸先生

11月28日(月)人吉球磨Patient Blood Management セミナー(患者中心の輸血医療)

「PBM〜患者中心の輸血医療〜に基づいた無輸血外科 治療の実践!

医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院

日帰り手術センター長・外科部長 川元 俊二先生

11月30日(水)第92回人吉球磨小児科研究会

「尿路感染症と膀胱尿管逆流症」

当院 小児科 師井 裕記朗先生

「痙攣を主訴に搬送された13歳女児」

当院 小児科 谷口 俊和先生

新任紹介



高江 さゆり (看護師)

最終卒業校:野田女子高等学校 専攻科 趣味:スキューバダイビング、スノーボード

好きな言葉:目の前の壁は大きなチャンス

自分のコマーシャル:人吉・球磨へ引っ越してきました。 慣れない環境で迷惑をおかけすることも多いと思います が、よろしくお願い致します。